みんなの文芸

引間豐作選　投稿数21句

古民家の薫風よぎる土間に立ち　皆野　植竹美恵子

(評)句の世界で風薫る・風の香・南薫などと使われる言葉で、芭蕉や蕪村はこの熟語をそのままに作句し、また現代の作者も風薫るより、薫風としての作例が多い。作者は民家の土間に立ち、開けられた表口より風が台所を通り、裏口より抜ける開放感のある風情に癒され、もしかすると頭上の梁に燕の巣があり、餌を運ぶ親鳥に遭えるやも。夏椿の句、作者の想いは眼前の夏椿の清楚さと、その花の宵を待たず散る潔さに、かの平家琵琶に語り継がれた二位の尼と妄徳帝の入水の壇浦に思いをいたしての、目をつむれば措辞に何とも魅力を感じる。

目つむれば琵琶の音かすか夏椿　三沢　新井　民子
衣ずれのやうな風吹き牡丹散る　下田野　中田　久恵
草刈りを終へしをとこの腕かな　下日野沢　引間富美子
植え逝きし夫に見せたきさつきかな　金沢　青木冨佐子
曇り空蕾の揃う花菖蒲　三沢　沢野　恒平
梅雨寒の睡魔に負けて居眠れり　下日野沢　江野　鎰子
御詠歌の鉦のもれくる夏木立　皆野　根岸　詩子
花嫁の船に歓声さつき晴　金沢　飯嶋万寿子
椎茸の甲羅干さるる日永かな　下日野沢　高山　ユウ
松蟬の声降る大霧山登る　三沢　眞下　杏子
友の来て昔を語る麦の秋　下日野沢　植木　豊子
一畝にも武甲映して田を植うる　下田野　藤田　稔

俳句・短歌を募集

作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して総務課へお寄せください。

8日必着　**1人1句、1首**に限ります。

中田國太郎選　投稿数20首

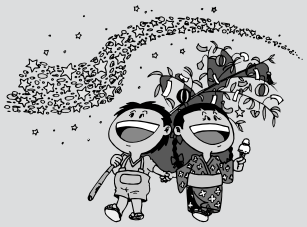
紫陽花の葉裏にひそとかたつむりそっとのぞけば角を出し居り　皆野　塩田　千代

(評)関東地方は、六月十日に梅雨入りしたと気象庁が発表した。この雨季を待っていたかのように紫陽花が雨に濡れてしっとり咲いている。そして、葉の裏には蝸牛が這い上がり、雨露をなめ若葉を食んでいた。この作者の観察眼の確かさと素直に何んのてらいもなく表現しているのに共感した。下の句の「そっとのぞけば角を出し居り」に小さな者に対する愛情がにじんでいる。紫陽花を詠んだ大岡博の一首「庭の空せまくこぼるる雨にぬれ青くあかるき紫陽花の花」民子作野性味をいとおしむ作者あり。茂作平和な牧歌的なひびきあり。野口作梅雨の晴れ間を待ち農に励む姿がほうふつと浮かぶ。

すたれゆく野ごぼうの餅作る掌に今を在る幸満ち足りて来ぬ　三沢　新井　民子
新緑を独り占めして農仕事八十八夜の神楽聞こゆる　皆野　新井　茂
地に落ちる汗ぬぐいつつ草を取る梅雨の晴れ間にホトトギス鳴く　皆野　野口　貞子
草を刈るのみに年経し棚田跡ことしはポピーの花園となる　三沢　眞下　杏子
花籠に感謝あふれるプレゼントのよろこび母の冥利につきぬ　皆野　新井　愛子
牧水の歌碑に西日のあたりゐて山の一日暮れゆかむとす　皆野　笠原三江子
片側の車線を止めて小雨中無言男ら水道工事　上日野沢　四方田利男
御開帳の善光寺尊に詣でける回向柱に触れ身の締まりくる　三沢　新井　叶子
年重ね弱りゆく身の悲しさよむち打ちてただ新芽植え込む　野巻　富田ヨシヱ
農業を暇なく励み家族をぞ養いし日の亡父に感謝す　下日野沢　浅見　豊子
雨にうたれ輝き失せし紅薔薇は涙のごとく雫侘しき　金崎　山田　雅子
夕暮の角道に立ち母を待つ孫は綿毛を吹き飛ばしおり　三沢　鈴木　貞恵

みなの七夕まつり ふれあいマーケット 出店者募集

期　日　8月1日(土)
時　間　午後6時30分～9時
場　所　本町商店街
資　格　秩父郡市内の団体・個人
参加費　イベント協力費として1店1,000円
申込み　7月17日(金)までに皆野町商工会へ
☎62-1311



1歳のお誕生日おめでとう

1歳になる赤ちゃんを募集しています

ご応募いただいた赤ちゃんは、全員掲載します。誕生月の前月10日までに総務課窓口（写真をご持参ください）または、町ホームページからお申し込みください。

問合せ　総務課企画政策担当
☎62-1230　内線204

カレラちゃん

親鼻区
逸見　淳さん
　　茜さん
我が家で人気大爆発のカレぽん☆
たくさん食べて大きくなってね☆